

平成24年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年5月14日
上場取引所 東

上場会社名 オンコセラピー・サイエンス株式会社
 コード番号 4564 URL <http://www.oncotherapy.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長
 定時株主総会開催予定日 平成24年6月27日
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(氏名) 角田 卓也
 (氏名) 山本 和男
 TEL 044-820-8251
 有価証券報告書提出予定日 平成24年6月27日

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期の連結業績(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	6,223	16.1	1,184	430.2	1,255	96.1	726	28.3
23年3月期	5,361	2.0	223	△29.9	640	8.8	566	11.1

(注) 包括利益 24年3月期 781百万円 (48.7%) 23年3月期 525百万円 (△7.7%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
24年3月期	3,476.64	3,097.69	7.2	10.5	19.0
23年3月期	2,746.84	2,399.47	6.0	6.0	4.2

(参考) 持分法投資損益 24年3月期 7百万円 23年3月期 2百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
24年3月期	12,718	11,288	82.3	49,209.08
23年3月期	11,194	10,259	86.8	46,938.77

(参考) 自己資本 24年3月期 10,468百万円 23年3月期 9,717百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
24年3月期	△91	3,440	25	8,937
23年3月期	440	△745	71	5,562

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
23年3月期	—	—	—	0.00	0.00	0	0.0	0.0
24年3月期	—	—	—	0.00	0.00	0	0.0	0.0
25年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00		0.0	

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,278	0.9	1,266	6.9	1,266	0.9	788	8.5	3,621.35

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数

24年3月期	212,726 株	23年3月期	207,022 株
24年3月期	— 株	23年3月期	— 株
24年3月期	209,099 株	23年3月期	206,331 株

(参考) 個別業績の概要

1. 平成24年3月期の個別業績(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(1) 個別経営成績 (％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期	6,062	13.1	1,149	94.3	1,214	30.9	745	△7.3
23年3月期	5,361	7.1	591	171.0	928	111.0	804	90.4

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期	3,563.59	3,175.16
23年3月期	3,897.43	3,404.55

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
24年3月期	12,822		11,401	83.4			50,270.42	
23年3月期	11,321		10,409	87.6			47,922.07	

(参考) 自己資本 24年3月期 10,693百万円 23年3月期 9,920百万円

2. 平成25年3月期の個別業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,128	1.1	1,217	0.2	785	5.4	3,607.62

※ 監査手続の実施状況に関する表示

・この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当社は業績管理を年次のみ行っており、第2四半期連結累計期間ならびに第2四半期累計期間の業績予想を行っておりません。
- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「経営成績に関する分析」をご覧ください。
- ・当社は平成24年5月15日にアナリスト向けの決算説明会を開催する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績	2
（1）経営成績に関する分析	2
（2）財政状態に関する分析	3
（3）研究開発の状況	4
（4）利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	6
（5）事業等のリスク	6
2. 企業集団の状況	12
3. 経営方針	13
（1）会社の経営の基本方針	13
（2）目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略	13
（3）会社の対処すべき課題	13
4. 連結財務諸表	14
（1）連結貸借対照表	14
（2）連結損益計算書及び連結包括利益計算書	16
（3）連結株主資本等変動計算書	18
（4）連結キャッシュ・フロー計算書	20
（5）継続企業の前提に関する注記	21
（6）連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項	22
（7）会計方針の変更	24
（8）連結財務諸表に関する注記事項	25
（連結貸借対照表関係）	25
（連結損益計算書関係）	26
（連結包括利益計算書関係）	27
（連結株主資本等変動計算書関係）	28
（連結キャッシュ・フロー計算書関係）	30
（リース取引関係）	30
（ストック・オプション等関係）	31
（セグメント情報等）	41
（1株当たり情報）	44
（重要な後発事象）	46
5. 個別財務諸表	47
（1）貸借対照表	47
（2）損益計算書	49
（3）株主資本等変動計算書	50
（4）継続企業の前提に関する注記	52
6. その他	52

1. 経営成績

（1）経営成績に関する分析

①当期の状況

当連結会計年度における連結事業収益につきましては、提携先製薬企業からの契約一時金、マイルストーン及び開発協力金などの受領により、6,223百万円（前期比862百万円の増加）となりました。

また、医薬品候補物質等の基礎研究、創薬研究及び臨床開発の継続的な推進及び臨床開発の進展による研究開発費等の事業費用の計上により、連結営業利益は1,184百万円（前期比960百万円の増加）、連結経常利益は1,255百万円（前期比615百万円の増加）、連結当期純利益は726百万円（前期比160百万円の増加）となりました。

②次期の見通し

当社グループの次期の見通しにつきましては、がん関連遺伝子の機能解析、がんワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬等の創薬研究を更に進展させるとともに、国内外において、各提携先製薬企業と共同で、または当社グループ独自で実施しております各開発パイプラインの推進に加え、臨床試験開始に向けて非臨床試験を実施中、または準備中の複数の医薬品候補物質につきましても臨床試験の早期開始に向けて努めてまいります。

このような研究開発の進展にともない、事業収益としては、提携先製薬企業からの契約一時金、マイルストーンならびに開発協力金等の受領を見込んでおり、研究開発費につきましては、創薬研究の進展および各開発パイプラインの開発推進に伴い発生する費用を見込んでおります。

平成25年3月期の業績見通しにつきましては、サマリーの「平成25年3月期の連結業績予想」ならびに「平成25年3月期の個別業績予想」のとおり見込んでおります。

なお、当社グループは業績管理を年次のみで行っており、第2四半期連結累計期間ならびに第2四半期累計期間の業績予想は、行っておりません。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債、純資産の状況

当連結会計年度末の総資産は、12,718百万円（前連結会計年度末比1,524百万円増加）となりました。内訳としては、流動資産は12,090百万円（同 1,600百万円増加）、これは現金及び預金が1,374百万円、売掛金が1,921百万円それぞれ増加した一方、有価証券が1,500百万円減少したことが主な要因となっています。固定資産は628百万円（同 76百万円減少）となりました。

負債の合計は1,430百万円（前連結会計年度末比495百万円増加）となりました。流動負債は1,223百万円（同 405百万円増加）となりました。これは、未払法人税等が408百万円増加したことが主な要因となっています。固定負債は206百万円（同 90百万円増加）となりました。

純資産は、11,288百万円（前連結会計年度末比1,028百万円増加）となりました。これは、利益剰余金が726百万円と新株予約権が219百万円それぞれ増加したことが主な要因となっております。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、8,937百万円（前連結会計年度末比 3,374百万円増加）となりました。

当連結会計年度のキャッシュ・フローの概況は以下の通りです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の減少は、91百万円（前連結会計年度末は、440百万円の増加）となりました。これは、税金等調整前当期純利益1,275百万円、株式報酬費用242百万円と減価償却費143百万円などの計上および前渡金が151百万円減少したことによる資金の増加の一方、売上債権1,921百万円の増加による資金の減少が主な要因となっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の増加は、3,440百万円（前連結会計年度末は、745百万円の減少）となりました。これは、預入期間3ヶ月超の定期預金の減少による資金の増加2,000百万円、償還期間3ヶ月超の有価証券の償還による収入1,500百万円が主な要因となっております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の増加は、25百万円（前連結会計年度末は、71百万円の増加）となりました。これは、株式の発行による資金の増加25百万円が要因となっております。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標の推移

	平成20年3月期	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期
自己資本比率(%)	91.7	94.2	88.6	86.8	82.3
時価ベースの自己資本比率(%)	289.2	321.9	355.2	320.9	231.3
キャッシュ・フロー対有利子負債比率(%)	—	—	—	—	—
インタレスト・カバレッジ・レシオ(倍)	—	—	—	—	—

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務諸表数値により計算しています。

(注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しています。

(注3) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しています。

(注4) 有利子負債は連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としています。

(注5) 「キャッシュ・フロー対有利子負債比率」「インタレスト・カバレッジ・レシオ」については有利子負債がないため記載しておりません。

(3) 研究開発の状況

当社グループは、元東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長（現、シカゴ大学教授）中村祐輔教授と共同で、ほぼ全てのがんを対象とした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、既に多くのがん治療薬開発に適した標的分子を同定しております。また、それらの標的に対し、がんペプチドワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬（siRNA医薬等）の、各領域における創薬研究を積極的に展開し、これら創薬研究の成果を基にした臨床試験を実施中または準備中の医薬品候補物質を複数有しております。

<基礎研究領域>

創薬ターゲットの特定等を行う基礎研究領域においては、ヒト全遺伝子の遺伝子発現パターンを網羅的に検索できるcDNAマイクロアレイ（※1、※2）のシステムにより大腸がん、胃がん、肝臓がん、非小細胞肺癌、小細胞肺癌、食道がん、前立腺がん、膵臓がん、乳がん、腎臓がん、膀胱がんおよび軟部肉腫等について発現解析が終了しております。これらの発現解析情報からがんが発現が高く正常臓器では発現がほとんどない遺伝子を選択し、更に機能解析により、がん細胞の生存に必須な多数の遺伝子を分子標的治療薬の標的として同定しております。

<創薬研究領域>

医薬品候補物質の同定及び最適化を行う創薬研究領域においては、医薬品の用途毎に、より製品に近い研究を積極的に展開しております。

がんペプチドワクチンにつきましては、これまでに日本人および欧米人に多く見られるHLA-A*24:02およびA*02:01を中心に、大腸がん、胃がん、肺がん、膀胱がん、腎臓がん、膵臓がん、乳がんおよび肝がんなどを標的とした計42遺伝子を対象としたペプチドワクチン（※3）を既に同定しております。また、A*11:01およびA*33:03など、様々なHLAに対応したより多くの候補ペプチドの同定を目指し、幅広いがん種を標的としたペプチドワクチンのスクリーニングを継続実施しております。

低分子医薬につきましては、6種のがん特異的タンパク質を標的とする創薬研究を進めております。そのうち2種のリン酸化酵素に関して、これまでに得た高活性化化合物に基づきリード最適化作業を進め、in vivo（※4）での薬効試験を実施中です。その結果、複数の化合物で高い腫瘍増殖抑制効果を確認しております。さらなるリード最適化を進めるとともに、薬効試験で有望な結果を得た化合物に対して、より詳細な薬理・薬物動態・毒性試験を進めております。さらに、別の1種の標的酵素タンパク質に関して、これまでの構造活性相関研究による新規化合物合成の結果得られた複数の高活性化化合物に基づきリード最適化作業を進めるとともに、in vivoでの薬効試験を実施中です。また、さらに別の3種の標的酵素タンパク質に関して、大規模化合物ライブラリのスクリーニングから得た高活性化化合物骨格につき、リード化合物獲得に向けた新規化合物合成と構造活性相関研究を進めるとともに、in vivoでの薬効試験を準備中です。

抗体医薬につきましては、3分子に絞り込んだ治療標的となるがん特異的抗原について、マウスモノクローナル抗体ならびにキメラ抗体のがん治療用抗体としての評価を行っております。1標的については、フランスで治験を実施しております。（詳細は、以下、〈医薬開発領域〉記載の「フランス現地子会社（OTS-France）で開発中のがん治療用抗体医薬の開発については」をご覧ください。）残りの2標的については、放射性同位体で標識した抗体を担がんマウスに投与することで、高い治療効果が得られることが判明しております。これらの抗体については臨床開発を視野に入れた抗腫瘍効果の検討および安全性の評価を進めております。

核酸医薬につきましては、高い効果が期待でき、かつ将来的に幅広いがん種への応用が期待できる開発候補として4分子を抽出し、なかでも特に効果の高い1分子に関して、in vivo（※4）での抗腫瘍効果の検討を進めております。また、継続して新規ドラッグ・デリバリー・システムの探索も精力的に進めております。

このように、独創的な分子標的治療薬の創製を目指した創薬研究を、多岐にわたり展開しております。

<医薬開発領域>

医薬開発領域においては、複数の製薬企業との提携による開発、ならびに当社独自での開発を、それぞれ進めております。

扶桑薬品工業株式会社ならびに大塚製薬株式会社と提携しております新生血管阻害作用を期待したがん治療用ワクチンOTS102（エルパモチド, Elpamotide）は、胆道がんを対象とした第Ⅱ相臨床試験を実施しています。

大塚製薬株式会社と提携しております膵臓がんに対するペプチドワクチンの開発については、既に実施中のがん治療用ワクチンOCV-101の第Ⅱ相臨床試験に加え、がんペプチドカクテルワクチン療法剤OCV-C01について、承認申請を目指した第Ⅲ相臨床試験（COMPETE-PC Study）を開始いたしました。このOCV-C01は、「オンコアンチゲン（※5）」を含む複数のペプチドを含有したカクテルワクチンであり、膵臓がんの高い抗腫瘍効果が期待されます。また、大腸がんペプチドワクチンについては、現在、GMP下でのペプチド合成を実施しており、臨床試験を開始するために必要な非臨床試験の準備をしています。

塩野義製薬株式会社と提携しております「オンコアンチゲン（※5）」由来のペプチドワクチンの開発

については、まず、膀胱がんを対象とした複数のペプチドワクチンを用いたがん治療用ワクチン製剤 (S-288310) で、国内において第 I / II 相臨床試験を、アジアにおいて第 I 相臨床試験を、それぞれ塩野義製薬株式会社により実施中です。また、食道がん、肺ならびに気管支及び頭頸部における扁平上皮がんを対象とした複数のペプチドワクチンを用いたがん治療用ワクチン製剤 (S-488410) については、食道がんを対象とした国内での第 I / II 相臨床試験を、頭頸部がんを対象にした欧州での第 I / II 相臨床試験を、それぞれ塩野義製薬株式会社により実施中です。さらに、加齢黄斑変性症治療用ペプチドワクチン (S-646240) につきましても、塩野義製薬株式会社が第 II a 相臨床試験を開始しております。

なお、塩野義製薬株式会社とは、平成24年3月29日付で、ペプチドワクチン研究開発の継続的な発展を目的とし、対象疾患を全がん腫のみならず全疾患に適応を拡大するとともに、新たに6種の「オンコアンチゲン(※5)」由来のペプチドワクチンをはじめとする、当社がその権利を保有する大部分のペプチドワクチンを対象とし、これらのペプチドワクチンを複数個含有したペプチドカクテルワクチンを有効成分とする医薬品の、全世界における独占的な開発・製造・販売権を塩野義製薬に供与する新たな契約を締結いたしました。さらに、この契約において、より有効なペプチドワクチンの探索研究を共同で行うことも合意しております。

小野薬品工業株式会社と提携しております「オンコアンチゲン (※5)」由来のペプチドワクチンについては、肝臓がんなどを対象とした臨床試験開始を目指し、GMP下でのペプチド合成及び非臨床試験を実施しております。

当社独自のがんペプチドワクチンの臨床開発は、シンガポールの NUH (National University Hospital) にて胃がんに対するワクチン OTSGC-A24 の第 I / II 相臨床試験を実施しております。フランス現地子会社 (OTS-France) で開発中のがん治療用抗体医薬 (OTSA101) については、フランス・リヨンにあるレオンベラルセンター (Centre Léon Bérard; CLB) などにおいて、Jean-Yves Blay 教授 (肉腫治療の世界的権威、欧州がん研究・治療機構 (EORTC) 会長) の指揮のもと第 I 相臨床試験 (治験) が施行されています。なお、OTSA101 については、欧州医薬品庁 (EMA) のオーファン医薬品委員会 (COMP) より、軟部肉腫に対するオーファンドラッグ (希少疾病用医薬品) として指定することを欧州委員会 (European Commission) に対して勧告する意見が採択されております。

[用語解説]

[用語解説]

(※1) mRNA、RNA、cDNA

RNAはリボ核酸、mRNAはRNAのうち、メッセンジャーすなわち「伝令」の役割をするものであります。人間の体は約60兆個の細胞によって作られていますが、体の構造や働きはおもにタンパク質によって決まっております。そのタンパク質の設計図は遺伝子であり、そして、遺伝子の本体はDNAであります。このDNAは細胞の核の中にある染色体に存在しておりますが、タンパク質は設計図であるDNAから直接作られるのではなく、一旦、DNAからRNAが作られ、そのRNAが翻訳されてタンパク質となります。この一旦作られるRNAを「伝令」すなわちメッセンジャーRNA (mRNA) といいます。つまり、遺伝子情報の流れはDNA→mRNA→タンパク質というようになっております。cDNAは、mRNA から逆転写酵素を用いた逆転写反応によって合成されたDNAで、イントロンを含まない状態の遺伝子 (塩基配列) を知ることができることから、遺伝子のクローニングに広く利用されております。

(※2) マイクロアレイ

小さな基盤上に非常に高密度にDNAを配置し、それらを手がかりに大量の遺伝子情報を獲得することを目的として開発されたシステム。現在、遺伝子発現情報の解析において有用なものであると考えられております。

(※3) ペプチド

タンパク質又はタンパク質の断片のこと。

(※4) in vivo

in vitroとは対比的に用いられ「体の中で」を意味する医学・化学用語です。一般に生体内(主に実験動物)での実験的検証を意味します。

(※5) オンコアンチゲン

がん細胞に特異的に発現し、増殖能などがん細胞に必須の機能を有する一方、正常細胞には極めて発現の低い分子で、細胞傷害性T細胞から認識される抗原性を持った腫瘍特異的な標的分子を指します。

(4) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして認識しており、経営成績及び財政状態を勘案しつつ利益配当を検討してまいりたいと考えております。しかしながら、現時点では将来のがん治療薬の上市に向け、基礎研究、創薬研究、並びに医薬品の開発を継続的に実施する段階にあるため、当面は内部留保に努め、研究開発資金の確保を優先しております。

(5) 事業等のリスク

以下において、当社グループの事業展開その他に関するリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しております。また、必ずしもそのようなリスク要因に該当しない事項についても、投資者の投資判断上、重要であると考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から以下に開示しております。なお、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。本株式に関する投資判断は、本項及び本書中の本項目以外の記載内容も併せて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。また、以下の記載は本株式への投資に関連するリスク全てを網羅するものではありませんので、その点にご留意ください。

なお、以下の記載のうち将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

(1) 研究開発活動について

① 大学との共同研究について

(a) 共同研究契約について

当社の研究開発活動においては、当社研究開発本部においての自社研究のウェイトを増大させつつあるものの、本書提出日現在、シカゴ大学との共同研究が重要な役割を担っており、それらの研究の成果物である新たながん治療標的の探索研究の成果は、当社の事業基盤として当面の事業展開において不可欠なものであり、その依存度は現状でも高いものとなっております。

当社としては、シカゴ大学との間で良好な関係を維持し、当社の事業基盤である共同研究を当面は継続していく方針であります。当該契約の更新が困難となった場合又は解除その他の理由により契約が終了した場合においては、当社事業に悪影響を与える可能性があります。

(b) がん関連遺伝子の網羅的解析について

当社が国立大学法人東京大学と実施した基礎研究の、「抗がん剤開発のためのがん特異的蛋白の同定とその機能解析、及び分子標的治療薬（治療法）開発の共同研究」は、(a) 臨床症例に基づいた研究成果であること、(b) LMM法によるがん細胞の分離により精度の高い解析が可能であること、(c) 遺伝子解析においてcDNAマイクロアレイを利用していること、(d) 特定された候補遺伝子とそれらのがんとの関連を複数の実験により検証していること等の特徴があり、当社は、これらの各要素を組み合わせ合わせた解析スキームに研究の優位性があり、各種のがんにおいて得られた遺伝子情報等は、治療効果が高く、かつ副作用が少ない抗がん剤等の開発や、特異性の高いがん診断薬の開発に有用であると認識しております。なお、現時点においては、第三者が同様の遺伝子解析を高精度で大規模に実施することは極めて困難であるものと考えておりますが、新たな研究手法等が確立された場合においては、今後における当該優位性が継続する保証はありません。

② その他の共同研究開発について

当社グループは、創薬を目指した研究や開発をより加速させ、またその分野を拡大する計画であり、大学等の公的研究機関やその他企業等との共同研究の実施や新たな連携を、必要に応じて積極的に模索しております。

今後も共同研究等の戦略的連携を積極的に推進していく予定ですが、これらの契約締結及び研究開発が当社の想定どおりに進捗しない可能性があるほか、契約内容によっては、当社において相応の費用負担が生じる可能性があります。

③ 研究及び開発の進展を目的とした子会社・関連会社の設立について

当社は、当社の事業機会である創薬シーズ（がん関連遺伝子等）を最大限有効活用するため、平成16年8月に株式会社医学生物学研究所と、抗体医薬の開発・製造・販売を行うイムナス・ファーマ株式会社を設立致しました。なお、イムナス・ファーマ株式会社は、平成19年9月21日に当社が、株式会社医学生物研究所所有の株式を取得したことにより、当社の子会社となっております。

平成18年6月には、ペプチドワクチンの創薬研究及び早期の臨床開発開始を目的とするワクチン・サイエンス株式会社を設立したほか、同じく平成18年6月に、ゲノム創薬や先進的医療の治験・臨床研究の推進を目的として、徳洲会グループと株式会社未来医療研究センターを設立致しました。なお、ワ

クチン・サイエンス株式会社につきましては、平成19年9月30日に当社が吸収合併しております。

また、平成22年5月には、フランスでの抗体医薬をはじめとしたがん治療薬の研究開発体制を確立し、開発をより加速、充実させる目的で、現地子会社Laboratoires OncoTherapy Science France S. A. R. L. を設立致しました。

今後も、研究及び開発の進展を目的として子会社や関連会社の設立を行う可能性があります。これら子会社、関連会社の研究及び開発活動が計画通りに実施できる保証はなく、また事業展開に伴う研究開発費用の増加等が当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

④ 臨床開発について

当社グループは、各提携先製薬企業と共同で、または当社グループ独自に複数の臨床開発を行っております。

しかしながら、当社グループの臨床開発活動が計画通りに実施できる保証はなく、進捗に遅れが生じたり、臨床開発の成果が期待通り得られない可能性があります。

⑤ 製造物責任のリスクについて

当社グループが行う医薬品の開発、製造、及び販売は、製造物責任を負う可能性があります。今後当社グループが開発、製造、及び販売したいずれかの医薬品が健康に悪影響を及ぼし、不適当な点が発見された場合には、製造物責任を負うことにより、当社グループの事業及び業績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

⑥ 副作用に関するリスクについて

当社グループが開発、製造、及び販売を行った医薬品で、臨床試験段階から製品上市後までにおいて、予期せぬ副作用が発現する可能性があります。副作用が発現した場合、当社グループの業績に直接的な悪影響を及ぼすばかりか、副作用によるネガティブなイメージにより、当社グループが開発、製造、及び販売を行う医薬品に対する信頼に悪影響が生じる可能性があります。

(2) 製薬企業等との提携について

① 提携先の研究開発の進捗状況等に影響を受けることについて

当社グループは、研究活動により得られる医薬品候補物質を製薬企業等に対して提供することを主な収益源としており、製薬企業等と締結する技術導出契約に基づき、契約一時金、開発協力金、マイルストーン及びロイヤリティ等を段階的に受領することになっております。これらの対価のうち、多くのマイルストーン及びロイヤリティの発生については、製薬企業等の研究開発の進捗及び医薬品発売・販売の状況等に依存するものであり、事業収益として計上されるには長期間を要する可能性があります。またこれらの事業収益が計上されない可能性もあります。

② 今後の事業提携について

当社グループは、製薬企業等との提携については、創薬研究の成果であるがんワクチンをはじめとして、低分子医薬、抗体医薬などのように個別の医薬品候補物質ごとに提携を拡大させております。しかしながら、当社グループが提供する医薬品候補物質等が、製薬企業等の研究開発ニーズと合致する保証はなく、また当社グループの想定通りに医薬品候補物質ごとの提携が推移する保証はありません。

(3) 社内体制について

① 特定の人物への依存について

(a) 代表取締役社長への依存

当社代表取締役社長である角田卓也は、平成18年4月に当社に入社し、代表取締役副社長研究開発本部長を経て、平成22年5月1日に代表取締役社長に就任しております。

同氏は、経営方針や事業戦略全般の策定、対外的折衝等に加えて、当社の研究・開発全般の方針決定、実施及び進捗管理において、重要な役割を果たしており、その依存度は非常に高いものがあります。当社は、今後においても同氏の当社グループ事業への関与が必要不可欠であると考えており、何らかの理由により同氏の当社グループの業務の遂行が困難となった場合、当社グループの事業戦略や経営成績等に大きな影響を与える可能性があります。

なお、同氏は子会社のLaboratoires OncoTherapy Science France S. A. R. L. の代表者を兼務しております。

(b) 代表取締役会長への依存

当社代表取締役会長である富田憲介は、平成14年5月に当社に入社し、同年7月に取締役に就任、平成15年4月から平成22年4月まで代表取締役社長を務め、平成22年5月1日に代表取締役会長に就任しております。

同氏は、過去において、三共株式会社（現第一三共株式会社）やローヌ・プーラン ローラー株式会社（現サノフィ アベンティス株式会社）等の約36年に及ぶ製薬業界における経験、また、アンジェスMG株式会社におけるバイオベンチャー企業の創業・事業立ち上げ等の実績があります。当社グループにおいては、研究開発体制を含む事業基盤の確立に重要な役割を果たしてきており、その依存度は高いものであると考えられます。今後も代表取締役会長として、大所高所から当社経営に果たす役割は大きいものがあり、何らかの理由により同氏の当社グループの業務の遂行が困難となった場合、当社グループの事業戦略や経営成績等に大きな影響を与える可能性があります。

なお、同氏は子会社のイムナス・ファーマ株式会社の代表取締役社長を兼務しております。

(c) サイエントフィックアドバイザー中村祐輔氏について

本書提出日現在、当社サイエントフィックアドバイザーである中村祐輔氏は、元東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長であり、現在シカゴ大学教授を務める人物であります。当社設立は、同氏の研究成果の事業化を目的とするものであり、現在においても、その成果が当社グループの研究開発活動の基盤となっております。今後も同氏の当社グループの研究開発活動へのアドバイスは必須であり、引き続き科学的な面に関しては協力を得ることになっております。

しかしながら、何らかの理由により同氏の協力が得られなくなった場合、当社グループの事業活動に影響を与えることは否定できません。

(4) 経営成績の推移等について

① 特定の販売先への依存について

当社グループの販売先は、製薬企業等を対象とする限定されたものであることから、取引先あたりの事業収益に占める依存度は高いものとなっております。

当社グループにおいては、今後においても新たな取引先の開拓を進める方針であり、その前提において取引先ごとの依存度低下を図る方針ではありますが、当社グループの想定通り推移する保証はありません。また、契約を締結している取引先の契約解消等が生じた場合については、当社グループの業績は大きく影響を受ける可能性があります。

② 収益計上について

当社グループは、製薬企業との契約により、その対価については、契約一時金、研究協力金、開発協力金、マイルストーン及びロイヤリティ等を段階的に受領することとしております。

契約一時金は、契約時に一定の権利の付与に対して受取る対価として一括収益計上しており、研究協力金及び開発協力金は製薬企業より契約に基づく研究開発に対する経済的支援として受領するものであり、役務の提供に基づき収益計上しております。

マイルストーンは自社あるいは提携先製薬企業における研究開発の進捗(予め設定されたイベント達成等)に応じて受取る対価、ロイヤリティは製薬企業が医薬品として上市された場合に売上等の一定率を対価として受領するものであり、製薬企業等からの報告等に基づき発生時に収益計上することとしております。

当社グループが契約に基づき受領する収益のうち、研究協力金及び開発協力金については、研究及び開発の内容等に応じて複数年に渡り受領することとされておりますが、一部については当該協力金について規定されていないものもあります。また、一般的に医薬品の開発期間は基礎研究開始から上市までに通常10年以上の長期間に及ぶものでもあります。なお、発生については、その多くが契約締結先の製薬企業等の研究開発の進捗及び医薬品発売・販売の状況等に依存するものであり、これらが事業収益として計上されるにはかなりの長期間を要する可能性があり、またこれらの事業収益が計上されない可能性もあります。

さらに、製薬企業等との契約締結の可否、契約締結時期及び収益の発生時期によって当社グループの業績は大きく変動する傾向にあり、これによる業績の上期又は下期への偏重が生じる可能性、又は場合によっては決算期ごとの業績変動要因となる可能性があります。

③ 研究開発費が多額であることについて

当社グループは研究開発型企业として、当連結会計年度においては4,715百万円を計上しております。

今後においても、継続した研究開発の実施及び事業領域の拡大等により、多額の研究開発費が必要となると想定されます。当社グループは既存の提携先に加えて、新たな取引先製薬企業の開拓を積極的に進めていく方針ではありますが、他の製薬企業との契約締結が進まない場合や既存の提携先との契約解消等が生じた場合、または自社による医薬品の開発を積極的に推進した場合、当社グループの業績の圧迫要因として業績に悪影響が生じる可能性があります。

(5) 大学との関係について

① 共同研究実施に係る費用負担について

当社は、本書提出日現在、シカゴ大学をはじめとした各大学(以下、「大学」という)との間で共同研究契約に基づく共同研究を実施しております。

当該共同研究にかかる当社の費用負担については、大学との協議により、当該共同研究において必要と見込まれる直接経費について共同研究費として大学に支払っております。当該費用については、契約期間を一括して支払うこととなっており、契約期間に対応して費用計上しております。なお、共同研究における活動状況に応じて生じる追加費用等については、相互協議による契約変更の手続きにより追加支払いを行う場合もあります。共同研究費の実績については、平成20年3月期は101百万円、平成21年3月期は106百万円、平成22年3月期は238百万円、平成23年3月期は、290百万円、平成24年3月期は、169百万円であります。

当社グループは、今後においても当社の事業基盤である共同研究を継続していく方針であり、相応の共同研究費を負担することとなります。

② 国立大学法人東京大学を中心とした各大学・研究機関教職員の兼業に係る利益相反の回避について

当社においては、徳島大学教授片桐豊雅が当社取締役（非常勤）に就任しているほか、本書提出日現在、各大学・研究機関の研究者(教授及び講師等)4名が同様に当社顧問として兼業しております。当社グループとしてはこれらの兼業を行っている者との関係においては、利益相反等の行為が発生しないように法規制等を遵守するとともに、当社グループの企業運営上取締役会の監視等を通じて十分留意しております。しかしながら、このような留意にかかわらず、利益相反等の行為が発生した場合には、グループの利益を損ねる恐れがあるほか、社会的に指弾を受ける等の不利益を被り、その結果として当社グループの業績等に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 知的財産権について

① 当社グループの特許に係る方針等について

バイオ・テクノロジー関連業界、特に遺伝子関連事業においては、競合会社等に対抗していくために特許権その他の知的財産権の確保が非常に重要であると考えられます。

当社は、共同研究の成果として生じるがん関連遺伝子及び遺伝子産物情報等並びに一部のがんワクチンについて、国立大学法人化以前は東京大学と共同で特許を出願してまいりましたが、これらの出願に関しては包括的な譲渡契約の締結により、既に当社への譲渡が完了しております。

また独立法人化以降の共同発明についても、同様に包括的な譲渡契約の締結により、既に当社への譲渡が完了しております。また、製薬企業等との提携にかかる医薬品関連の特許については、発明の実態と提携契約に基づき提携先企業が出願する場合があります。

しかしながら、研究の過程において特許性を有する成果が生じた場合においても、特許出願については、有用性及び費用対効果等を考慮して行うものであり、全てについて特許を出願するものではなく、また、特許を出願及び取得した場合においても、特許の取得及び維持に係る費用等について、当社グループの事業の収益により全て回収できる保証はありません。

② 出願特許について

当社は東京大学をはじめとした各大学との共同研究において発見したがん関連遺伝子及び遺伝子産物情報等並びに医薬品候補物質等について、平成24年3月末現在においては、1,397件（同一遺伝子等に係る複数の出願を含む）の特許を出願しております。しかしながら、当該特許が全て成立する保証はなく、特許出願によって当社の権利を確実に保全できる保証はありません。

遺伝子関連の特許については、個別の遺伝子特許が及ぶ権利範囲について日米欧の3極の特許庁が合意したガイドライン等はあるものの、複雑な法律上及び事実認定上の問題等が存在しております。また、日本及びその他の国の特許関連法規、あるいは、その解釈により、競合他社、大学あるいはその他の組織が、当社に対して補償等を行うことなく技術を使用し、医薬品などの開発及び販売を行うことができる可能性があります。

③ 知的財産権に関する訴訟及びクレーム等について

本書発表日現在において、当社グループの事業に関連した特許権等の知的財産権について、第三者との間で訴訟やクレームといった問題が発生したという事実はありません。

当社グループは、現時点においては、当社グループの事業に関し他者が保有する特許等への抵触により、事業に重大な支障を及ぼす可能性は低いものと認識しております。

ただし、当社グループのような遺伝子関連企業にとって、このような知的財産権侵害問題の発生を完全に回避することは困難であります。今後において、当社グループが第三者との間の法的紛争に巻

き込まれた場合、当社グループは弁護士や弁理士との協議の上、その内容によって個別具体的に対応策を検討していく方針であります。当該第三者の主張に理由があるなしかかわらず、解決に時間及び多大の費用を要する可能性があり、場合によっては当社の事業戦略や経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(7) バイオ・テクノロジー業界等にかかるリスクについて

① 業界動向について

近年、いわゆる「ヒトゲノム・プロジェクト」以降、バイオ・テクノロジー業界は急速に変化しており、遺伝子構造解析の段階から、遺伝子機能解析を進めることによりゲノム情報を用いた創薬、遺伝子治療、再生医療、オーダーメイド医療といった分野の段階に進んでおり、ゲノム研究分野は急激な市場規模の拡大が見込まれております。同時に、業界への参入も従来の製薬関連メーカーのみならず、オーダーメイド医療の材料を狙う繊維メーカー、発酵技術を持つ酒造メーカー、バイオ・インフォマティクス分野での取組みが目立つIT関連企業など幅広い広がりを見せており、今後においても当該傾向は継続するものと当社は想定しております。

また、当社グループの事業に深い関連を有する抗がん剤市場を取り巻く状況は、①高齢化の進展、②がん診断による早期発見の増加（長期的治療の増加）及び③分子標的治療薬の登場等により、市場は拡大しており、当社グループは今後においても同様に市場は拡大するものと想定しております。

この様な市場の拡大は、参入企業の増加、潜在的な競合企業の増加の要因とも考えられ、また、異業種間の連携により技術革新などが飛躍的に進展する可能性もあり、当社グループを取り巻く事業環境は、急激な変化を生じる要素を数多く内包しているものと考えられます。

これらのことから、当該変化に柔軟に対応できなかった場合には、当社グループの事業戦略が予想どおり進まない可能性や事業戦略の変更を余儀なくされる可能性があり、当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループの想定通りに市場拡大が図られなかった場合においても、当社グループの事業戦略等は変更を余儀なくされる可能性があります。

② 競合について

当社グループが事業を展開するゲノム研究分野は急激な市場規模の拡大が見込まれており、欧米を中心にベンチャー企業を含む多くの企業が参入しており、競争は激化する可能性があります。また、遺伝子の機能解析分野においては、競合企業として、製薬企業のみならず他の分野における資金力等を有する企業等もあります。

がん関連遺伝子の単離・同定や機能解析については、スピード競争的な要素も強く、競合他社が当該領域において先行した場合、当社グループの事業の優位性は低下する可能性があります。

また、これらの競争に巻き込まれ、当社グループの事業展開において当社グループが想定する以上の資金が必要となる可能性もあります。

当社グループは、現時点において、中村祐輔教授との共同研究の成果であるがん遺伝子の高精度で網羅的な解析方法等に優位性があるものと認識しておりますが、今後の競争激化による影響等により、当社グループの事業戦略や経営成績等に重大な影響を及ぼす可能性があります。

③ 技術革新について

当社グループが行う研究分野は、いずれも技術の革新及び進歩の度合いが著しく速いバイオ・テクノロジー分野に属しております。そのため、当社は、複数の大学等公的研究機関との共同研究において、最先端の研究成果を速やかに導入できる体制を構築しております。

しかしながら、急激な研究の進歩などにより医薬品の研究開発において有効と思われる研究成果等への対応が困難となった場合には、当社グループの事業展開に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。また、必要な研究成果を常に追求するためには多額の費用と時間を要することから、これにより当社グループの業績等に影響を及ぼす可能性があります。

(8) その他

① 研究活動にかかる補助金等について

当社グループは、自社の研究領域において、公的機関が実施する補助、助成制度を積極的に活用すべく、これら事業等への申請を積極的に実施していく方針であります。当社グループが申請する補助事業等について必ずしも採択される保証はありません。

② インセンティブの付与について

当社は、会社の利益が取締役及び従業員個々の利益と一体となり職務に精励する動機付けを行うため、また、社外のリソースを有効に活用し当社事業の円滑な遂行を図る目的で、当社の役員、従業員及び社外協力者等に対するインセンティブ制度を導入しております。当期においては平成22年6月25

日の株主総会決議に基づき、平成23年6月10日に開催された取締役会において、当社取締役3名、従業員63名、社外協力者16名に対して新株予約権を割当てております。
なお、本書提出日現在における当社の発行済株式総数は215,827株ありますが、これに対して、新株予約権に係る新株発行予定株数の合計は24,908株であります。

当該新株予約権が行使された場合は当社の株式価値は希薄化することとなり、また、株式市場での需給バランスに変動が発生し株価へ影響を及ぼす可能性もあります。

2. 企業集団の状況

当社グループは、当社、連結子会社2社、持分法適用会社1社の合計4社より構成しており、がん治療薬、診断薬の研究開発を推進しております。

当社グループの各社の事業内容は以下のとおりです。

＜当社グループ各社の事業内容＞

名称	主要な事業内容
オンコセラピー・サイエンス株式会社	がん関連遺伝子及び遺伝子産物の研究、医薬品・診断薬候補物質の創薬研究、及び医薬品の臨床開発
イムナス・ファーマ株式会社	抗体医薬の研究開発
Laboratoires OncoTherapy Science France S. A. R. L	抗体医薬をはじめとしたがん治療薬の研究開発
株式会社未来医療研究センター	各種治験、臨床研究等のサポート業務

3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「より副作用の少ないがん治療薬・治療法を一日も早くがんを苦しむ患者さんに届けること、がんとの闘いに勝つこと」を企業使命として、その実現のためがん関連遺伝子の探索等の基礎研究、医薬品候補物質を同定する創薬研究、並びに医薬品としての承認取得の為の臨床開発を推進しております。

当社グループは、安定経営に留意しながら、がん治療薬・治療法の研究及び開発を着実に推進し、がん治療の分野で社会に貢献したいと考えております。

(2) 目標とする経営指標及び中長期的な会社の経営戦略

当社は、研究開発型企業として、基礎研究、創薬研究、並びに医薬品開発を推進しており、収益につきましては、提携先製薬企業等からの契約一時金、開発協力金、マイルストーン収入等を計上しております。将来において、当社が自らががん治療薬を上市した場合には、医薬品の販売収入が計上され、また提携先企業ががん治療薬を上市した場合には、ロイヤリティ収入が計上されることとなり、収益及び利益が飛躍的に拡大するとともに収益基盤が安定することが想定されます。

しかしながら、がん治療薬が上市されるまでの間は、事業領域の拡大や自社による研究開発の進展に伴い研究開発費が増加することが想定されますが、収益源となる製薬企業との新たな提携契約の締結、ベンチャー企業・アカデミアと共同研究や共同開発の実施、公的機関による補助・助成制度の積極的な活用などにより自社の経費負担を軽減し、経営の安定を図りながら事業を推進してまいります。

(3) 会社の対処すべき課題

当社グループは、対処すべき課題を以下のように考えています。

① 基礎研究の継続的な実施

本書提出日現在、当社がシカゴ大学と進めております「新たながん治療標的の探索研究」は、当社事業の基盤となる基礎研究であります。

当社は当該基礎研究の継続的な実施を当社事業の最重要課題の一つとして認識しており、今後も研究体制の充実と円滑な推進のための対応を図っていく方針であります。

② 創薬研究の確実な推進、並びに事業領域の広範化

当社グループは基礎研究の成果をもとに、臨床応用を目指してがんワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬等の創薬研究を自らあるいはパートナーと共同で実施しております。

当社グループは、今後も創薬研究を積極的に実施し、早期臨床試験開始を目指すとともに、当社グループの研究成果を更に有効に活用するため、事業領域の拡大も図っていく方針であります。

③ 臨床開発の確実な推進

当社グループは、国内外において、各提携先製薬企業と共同で、または当社グループ独自で複数の臨床試験を行っております。

当社グループは、これら各パイプラインの臨床試験を確実に推進させる方針であります。

④ 新規提携先の開拓及び既存提携先との提携事業の確実な推進

当社グループは、提携先の製薬企業に対して医薬品候補物質の提供、あるいは特定の医薬品候補物質をベースとした医薬品の研究開発に係る提携を行っており、今後とも新規提携先の積極的な開拓を進めるとともに、既存提携先との提携事業を確実にかつ迅速に進め、一刻も早く上市を目指します。

4. 連結財務諸表
(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,562,546	8,937,546
売掛金	878,503	2,800,150
有価証券	1,500,000	—
原材料及び貯蔵品	25,168	23,530
前渡金	449,009	293,027
その他	74,651	36,540
貸倒引当金	△634	△634
流動資産合計	10,489,244	12,090,160
固定資産		
有形固定資産		
建物	359,717	360,515
減価償却累計額	△87,383	△117,168
建物(純額)	272,334	243,347
機械及び装置	131,954	131,954
減価償却累計額	△116,388	△120,310
機械及び装置(純額)	15,566	11,644
工具、器具及び備品	594,069	611,209
減価償却累計額	△435,173	△508,054
工具、器具及び備品(純額)	158,896	103,154
有形固定資産合計	446,796	358,146
無形固定資産		
特許権	142,925	152,547
ソフトウェア	10,151	8,531
その他	72	72
無形固定資産合計	153,150	161,151
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 34,907	※1 42,900
長期前払費用	4,023	1,446
差入保証金	66,021	64,907
投資その他の資産合計	104,952	109,255
固定資産合計	704,899	628,552
資産合計	11,194,143	12,718,713

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	322,614	338,083
前受金	353,541	301,528
未払法人税等	77,585	485,634
その他	64,349	98,146
流動負債合計	818,091	1,223,392
固定負債		
繰延税金負債	38,804	27,774
資産除去債務	77,642	79,982
その他	—	99,189
固定負債合計	116,447	206,946
負債合計	934,539	1,430,339
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,546,441	3,560,320
資本剰余金	6,511,663	6,525,542
利益剰余金	△349,727	377,234
株主資本合計	9,708,378	10,463,098
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	8,980	4,951
その他の包括利益累計額合計	8,980	4,951
新株予約権	489,018	708,123
少数株主持分	53,226	112,200
純資産合計	10,259,604	11,288,373
負債純資産合計	11,194,143	12,718,713

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
事業収益	5,361,397	6,223,947
事業費用		
研究開発費	※1 4,753,005	※1 4,715,369
販売費及び一般管理費	※2 385,068	※2 324,441
事業費用合計	5,138,073	5,039,810
営業利益	223,323	1,184,137
営業外収益		
受取利息	9,921	4,389
有価証券利息	1,367	1,917
持分法による投資利益	2,414	7,993
助成金収入	※3 408,835	※3 57,346
雑収入	5,309	119
営業外収益合計	427,847	71,765
営業外費用		
為替差損	10,652	35
営業外費用合計	10,652	35
経常利益	640,519	1,255,867
特別利益		
貸倒引当金戻入額	3,020	—
新株予約権戻入益	1,556	21,121
その他	2	—
特別利益合計	4,579	21,121
特別損失		
固定資産除却損	※4 6,039	※4 1,715
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	21,432	—
その他	633	—
特別損失合計	28,105	1,715
税金等調整前当期純利益	616,992	1,275,272
法人税、住民税及び事業税	62,697	500,367
法人税等調整額	37,399	△11,029
法人税等合計	100,097	489,337
少数株主損益調整前当期純利益	516,895	785,935
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△49,863	58,973
当期純利益	566,758	726,961

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	516,895	785,935
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	8,980	△4,028
その他の包括利益合計	8,980	※1 △4,028
包括利益	525,875	781,906
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	575,739	722,932
少数株主に係る包括利益	△49,863	58,973

(3) 連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,505,953	3,546,441
当期変動額		
新株の発行（新株予約権の行使）	40,487	13,879
当期変動額合計	40,487	13,879
当期末残高	3,546,441	3,560,320
資本剰余金		
当期首残高	6,471,175	6,511,663
当期変動額		
新株の発行（新株予約権の行使）	40,487	13,879
当期変動額合計	40,487	13,879
当期末残高	6,511,663	6,525,542
利益剰余金		
当期首残高	△916,486	△349,727
当期変動額		
当期純利益	566,758	726,961
当期変動額合計	566,758	726,961
当期末残高	△349,727	377,234
株主資本合計		
当期首残高	9,060,643	9,708,378
当期変動額		
新株の発行（新株予約権の行使）	80,975	27,758
当期純利益	566,758	726,961
当期変動額合計	647,734	754,720
当期末残高	9,708,378	10,463,098
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定		
当期首残高	—	8,980
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,980	△4,028
当期変動額合計	8,980	△4,028
当期末残高	8,980	4,951
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	—	8,980
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	8,980	△4,028
当期変動額合計	8,980	△4,028
当期末残高	8,980	4,951

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
新株予約権		
当期首残高	229,983	489,018
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	259,035	219,104
当期変動額合計	259,035	219,104
当期末残高	489,018	708,123
少数株主持分		
当期首残高	103,090	53,226
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△49,863	58,973
当期変動額合計	△49,863	58,973
当期末残高	53,226	112,200
純資産合計		
当期首残高	9,393,717	10,259,604
当期変動額		
新株の発行 (新株予約権の行使)	80,975	27,758
当期純利益	566,758	726,961
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	218,151	274,049
当期変動額合計	865,886	1,028,769
当期末残高	10,259,604	11,288,373

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	616,992	1,275,272
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	21,432	—
減価償却費	156,978	143,226
株式報酬費用	270,124	242,217
持分法による投資損益 (△は益)	△2,414	△7,993
固定資産除却損	6,039	1,715
売上債権の増減額 (△は増加)	△575,042	△1,921,646
たな卸資産の増減額 (△は増加)	9,345	1,637
前渡金の増減額 (△は増加)	36,155	151,235
未払金の増減額 (△は減少)	46,924	13,615
前受金の増減額 (△は減少)	△95,173	△52,012
その他	△52,801	145,490
小計	438,561	△7,241
利息の受取額	8,670	9,214
法人税等の支払額	△6,270	△93,298
営業活動によるキャッシュ・フロー	440,961	△91,325
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	1,000,000	2,000,000
有価証券の増減額 (△は増加)	△1,500,000	1,500,000
有形固定資産の取得による支出	△187,979	△15,560
無形固定資産の取得による支出	△53,941	△44,717
その他	△3,402	1,110
投資活動によるキャッシュ・フロー	△745,323	3,440,832
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	71,442	25,767
財務活動によるキャッシュ・フロー	71,442	25,767
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,371	△274
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△228,547	3,374,999
現金及び現金同等物の期首残高	5,791,093	5,562,546
現金及び現金同等物の期末残高	※1 5,562,546	※1 8,937,546

(5) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(6) 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数

2社

連結子会社の名称

Laboratoires OncoTherapy Science France S.A.R.L.

イムナス・ファーマ株式会社

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数

1社

会社等の名称

株式会社未来医療研究センター

(2) 持分法を適用しない関連会社の名称

株式会社免疫工学研究所

持分法を適用しない理由

持分法を適用していない関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

a その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

a 原材料

移動平均法による原価法

b 貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3～18年
機械及び装置	8年
工具、器具及び備品	3～15年

② 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、特許権については8年、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間（5年）で償却しております。

③ 長期前払費用

定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資としております。

(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜き方式によっております。

(7) 会計方針の変更

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

追加情報

当連結会計年度の期首以後に行なわれる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(8) 連結財務諸表に関する注記事項

(連結貸借対照表関係)

※1 関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
投資有価証券(株式)	34,907千円	42,900千円

(連結損益計算書関係)

※1 研究開発費の主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
外注費	2,404,550千円	2,285,742千円
試薬代	267,009 "	231,672 "
給与手当	359,943 "	367,281 "
減価償却費	144,433 "	129,425 "
共同研究費	290,144 "	169,765 "

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
支払手数料	84,406千円	78,420千円
役員報酬	49,611 "	50,331 "
給与手当	48,454 "	40,833 "
地代家賃	20,368 "	5,092 "
減価償却費	12,545 "	13,800 "
租税公課	34,393 "	34,400 "
株式報酬費用	60,225 "	39,589 "

※3 助成金収入の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
関東経済産業局	19,641千円	53,846千円
独立行政法人新エネルギー・ 産業技術総合開発機構	318,635 "	—
全国中小企業団体中央会	68,558 "	—
雇用者特別奨励金	2,000 "	3,500 "
計	408,835千円	57,346千円

※4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
特許権	3,427千円	1,605千円
建物	2,527 "	—
工具、器具及び備品	84 "	110 "
計	6,039千円	1,715千円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

為替換算調整勘定

当期発生額	△4,028千円
-------	----------

組替調整額	<u>—</u>
-------	----------

税効果調整前	△4,028千円
--------	----------

税効果額	<u>—</u>
------	----------

為替換算調整勘定	<u>△4,028千円</u>
----------	-----------------

その他の包括利益合計	<u>△4,028千円</u>
------------	-----------------

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	202,729	4,293	—	207,022

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

新株予約権の行使による新株の発行による増加 4,293株

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

区分	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社(親会社)	ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	—	—	—	—	489,018
合計			—	—	—	—	489,018

連結子会社における新株予約権の当連結会計年度末残高はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	207,022	5,704	—	212,726

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次の通りであります。

新株予約権の行使による新株の発行による増加 5,704株

2 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3 新株予約権等に関する事項

区分	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社(親会社)	ストック・オプションとしての新株予約権	普通株式	—	—	—	—	708,123
合計			—	—	—	—	708,123

連結子会社における新株予約権の当連結会計年度末残高はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項はありません。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
現金及び預金	7,562,546千円	8,937,546千円
有価証券	1,500,000 "	—
預入期間3ヶ月超の定期預金	△2,000,000 "	—
償還期間3ヶ月超の有価証券	△1,500,000 "	—
現金及び現金同等物	5,562,546千円	8,937,546千円

(リース取引関係)

1. オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	982千円	2,633千円
1年超	292 "	2,942 "
合計	1,274千円	5,576千円

(ストック・オプション等関係)

1. 費用計上額及び科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
研究開発費における株式報酬費用	209,899千円	202,627千円
販売費及び一般管理費における株式報酬費用	60,225千円	39,589千円

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
新株予約権戻入益	1,556千円	21,121千円

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

(提出会社)

決議年月日	平成14年5月13日	平成14年7月24日	平成14年11月27日
付与対象者の区分及び人数(名)	①取締役 1 従業員 11 ②社外協力者 3	①取締役 3 従業員 9 社外協力者 2 ②社外協力者 5	①取締役 2 監査役 1 従業員 6 社外協力者 1 ②社外協力者 1社及び1
株式の種類及び付与数(株)	①普通株式 12,900 ②普通株式 1,950	①普通株式 12,000 ②普通株式 14,250	①普通株式 5,400 ②普通株式 2,250
付与日	平成14年5月14日	平成14年7月24日及び平成14年10月18日	平成14年11月27日及び平成15年2月21日
権利確定条件	被付与者が従業員、監査役、社外協力者、当社関係会社の取締役、及び従業員の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が従業員、監査役、社外協力者、当社関係会社の取締役、及び従業員の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が従業員、監査役、社外協力者、当社関係会社の取締役、及び従業員の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること
対象勤務期間	①平成14年5月14日から平成16年5月13日まで ②—	①平成14年7月24日から平成16年7月24日まで ②—	①平成14年11月27日から平成16年11月27日まで ②—
権利行使期間	①平成16年5月14日から平成24年5月13日まで ②平成14年5月15日から平成24年5月13日まで	①平成16年7月25日から平成24年5月13日まで ②平成14年7月25日から平成24年5月13日まで	①平成16年11月28日から平成24年10月31日まで ②平成14年11月28日から平成24年10月31日まで

決議年月日	平成15年 7月15日	平成16年 6月29日	平成17年 6月29日
付与対象者の区分及び人数(名)	①取締役 1 監査役 2 従業員 19 ②社外協力者 2 ③社外協力者 1社	監査役 1 従業員 22	①取締役 1 従業員 4 ②取締役 1 監査役 2 従業員 28
株式の種類及び付与数(株)	①普通株式 2,610 ②普通株式 6,000 ③普通株式 1,500	普通株式 1,005	①普通株式 1,600 ②普通株式 6,126
付与日	平成15年 7月16日	平成16年 7月23日	①平成17年11月 4日 ②平成18年 4月24日
権利確定条件	被付与者が従業員、監査役、社外協力者、当社関係会社の取締役、及び従業員の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が従業員、監査役、社外協力者、当社関係会社の取締役、及び従業員の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が従業員、監査役、社外協力者、当社関係会社の取締役、及び従業員の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること
対象勤務期間	① 平成15年 7月16日から平成15年 7月21日まで ② — ③ —	平成16年 7月23日から平成18年 6月29日まで	① 平成17年11月 4日から平成19年 6月29日まで ② 平成18年 4月29日から平成19年 6月29日まで
権利行使期間	① 平成17年 7月22日から平成25年 6月30日まで ② 平成15年 7月22日から平成25年 6月30日まで ③ 平成15年 7月22日から平成25年 6月30日まで	平成18年 6月30日から平成26年 6月29日まで	平成19年 6月30日から平成27年 6月29日まで

決議年月日	平成18年6月27日	平成19年6月28日	平成20年6月27日
付与対象者の区分及び人数(名)	従業員 21 社外協力者 3	①取締役 2 従業員 18 ②社外協力者 2 ③従業員 30 ④社外協力者 9	①社外協力者 3 ②取締役 2 監査役 2 従業員 36 ③社外協力者 2
株式の種類及び付与数(株)	普通株式 1,500	①普通株式 1,260 ②普通株式 20 ③普通株式 620 ④普通株式 100	①普通株式 10 ②普通株式 2,920 ③普通株式 20
付与日	平成19年5月28日	①平成19年9月26日 ②平成19年9月26日 ③平成20年6月16日 ④平成20年6月16日	①平成20年8月25日 ②平成21年6月26日 ③平成21年6月26日
権利確定条件	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員(顧問、相談役含む)の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員(顧問、相談役含む)の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員(顧問、相談役含む)の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること
対象勤務期間	平成19年5月28日から平成21年5月28日まで	①平成19年9月26日から平成21年9月26日まで ②平成19年9月26日から平成21年9月26日まで ③平成20年6月16日から平成22年6月16日まで ④平成20年6月16日から平成22年6月16日まで	①平成20年8月25日から平成22年8月25日まで ②平成21年6月26日から平成23年6月26日まで ③平成21年6月26日から平成23年6月26日まで
権利行使期間	平成21年5月29日から平成29年5月27日まで	①平成21年9月27日から平成29年9月25日まで ②平成21年9月27日から平成29年9月26日まで ③平成22年6月17日から平成30年6月13日まで ④平成22年6月17日から平成30年6月16日まで	①平成22年8月26日から平成30年8月25日まで ②平成23年6月27日から平成31年6月25日まで ③平成23年6月27日から平成31年6月26日まで

決議年月日	平成21年6月26日	平成22年6月25日
付与対象者の区分及び人数(名)	①取締役 2 監査役 1 従業員 32 ②社外協力者 21	①取締役 3 従業員 63 ②社外協力者 16
株式の種類及び付与数(株)	①普通株式 2,510 ②普通株式 460	①普通株式 2,280 ②普通株式 220
付与日	①平成22年6月4日 ②平成22年6月4日	①平成23年6月13日 ②平成23年6月13日
権利確定条件	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員(顧問、相談役含む)の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員(顧問、相談役含む)の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること
対象勤務期間	①平成22年6月4日から平成24年6月4日まで ②平成22年6月4日から平成24年6月4日まで	①平成23年6月13日から平成25年6月13日まで ②平成23年6月13日から平成25年6月13日まで
権利行使期間	①平成24年6月5日から平成32年6月3日まで ②平成24年6月5日から平成32年6月3日まで	①平成25年6月14日から平成33年6月10日まで ②平成25年6月14日から平成33年6月10日まで

(注) 当社は平成15年6月13日付で、1株につき50株の株式分割を行っており、また平成16年11月19日付で、1株につき3株の株式分割を行っております。株式の種類及び付与数並びに当該株式分割にかかる調整を行っております。

（連結子会社：イムナス・ファーマ株式会社）

決議年月日	平成16年8月31日	平成17年6月22日	平成18年6月23日
付与対象者の区分及び人数（名）	①取締役 4 従業員 6 ②株主 2 ③社外協力者 38 ④社外協力者 1 ⑤社外協力者 2	①社外協力者 17 ②取締役 1 従業員 2 ③社外協力者 1	従業員 2
株式の種類及び付与数（株）	①普通株式 970 ②普通株式 6,000 ③普通株式 283 ④普通株式 30 ⑤普通株式 120	①普通株式 73 ②普通株式 163 ③普通株式 60	普通株式 80
付与日	①平成16年9月5日 ②平成16年9月5日 ③平成16年9月5日 ④平成16年11月22日 ⑤平成16年11月22日	①平成17年9月22日 ②平成18年1月25日 ③平成18年2月3日	平成19年6月18日
権利確定条件	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員（顧問、相談役含む）の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員（顧問、相談役含む）の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員（顧問、相談役含む）の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること
対象勤務期間	①平成16年9月5日から平成18年9月5日まで ②平成16年9月5日から平成18年9月5日まで ③平成16年9月5日から平成18年9月5日まで ④平成16年11月22日から平成18年11月23日まで ⑤平成16年11月22日から平成18年11月23日まで	①平成17年9月22日から平成19年9月21日まで ②平成18年1月25日から平成20年1月25日まで ③平成18年2月3日から平成20年2月3日まで	平成19年6月18日から平成21年6月18日まで
権利行使期間	①平成18年9月6日から平成26年8月31日まで ②平成18年9月6日から平成26年8月31日まで ③平成18年9月6日から平成26年8月31日まで ④平成18年11月24日から平成26年8月31日まで ⑤平成18年11月24日から平成26年8月31日まで	①平成19年9月22日から平成27年6月22日まで ②平成20年1月26日から平成27年6月22日まで ③平成20年2月4日から平成27年6月22日まで	平成21年6月19日から平成29年6月18日まで

決議年月日	平成19年10月29日	平成20年 6月30日	平成21年 7月16日
付与対象者の区分及び人数（名）	株主 1	① 取締役 1 従業員 7 ② 社外協力者 8 ③ 社外協力者 1 ④ 取締役 1 従業員 7 ⑤ 社外協力者 8	① 取締役 3 従業員 6 ② 社外協力者 11 ③ 取締役 1 従業員 5 ④ 社外協力者 5
株式の種類及び付与数（株）	普通株式 3,000	① 普通株式 550 ② 普通株式 140 ③ 普通株式 30 ④ 普通株式 580 ⑤ 普通株式 200	① 普通株式 300 ② 普通株式 148 ③ 普通株式 60 ④ 普通株式 40
付与日	平成19年11月27日	① 平成20年 7月14日 ② 平成20年 7月14日 ③ 平成20年10月10日 ④ 平成21年 6月29日 ⑤ 平成21年 6月29日	① 平成21年 7月17日 ② 平成21年 7月17日 ③ 平成21年11月30日 ④ 平成21年11月30日
権利確定条件	—	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員（顧問、相談役含む）の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること	被付与者が当社または当社関係会社の取締役、監査役及び従業員（顧問、相談役含む）の地位にある、また社外協力者については、当社への協力関係を維持していること
対象勤務期間	—	① 平成20年 7月14日から平成22年 7月14日まで ② 平成20年 7月14日から平成22年 7月14日まで ③ 平成20年10月10日から平成22年10月10日まで ④ 平成21年 6月29日から平成23年 6月29日まで ⑤ 平成21年 6月29日から平成23年 6月29日まで	① 平成21年 7月17日から平成23年 7月17日まで ② 平成21年 7月17日から平成23年 7月17日まで ③ 平成21年11月30日から平成23年11月30日まで ④ 平成21年11月30日から平成23年11月30日まで
権利行使期間	平成19年11月28日から平成26年 8月31日まで	① 平成22年 7月15日から平成30年 7月14日まで ② 平成22年 7月15日から平成30年 7月14日まで ③ 平成22年10月11日から平成30年10月10日まで ④ 平成23年 6月30日から平成31年 6月29日まで ⑤ 平成23年 6月30日から平成23年 6月29日まで	① 平成23年 7月18日から平成31年 7月17日まで ② 平成23年 7月18日から平成31年 7月17日まで ③ 平成23年12月 1日から平成31年11月30日まで ④ 平成23年12月 1日から平成31年11月30日まで

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

①ストック・オプションの数

(提出会社)

決議年月日	平成14年 5月13日	平成14年 7月24日	平成14年11月27日
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	—	—	—
付与	—	—	—
失効	—	—	—
権利確定	—	—	—
未確定残	—	—	—
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	251	20,801	3,904
権利確定	—	—	—
権利行使	251	5,072	300
失効	—	—	—
未行使残	—	15,729	3,604
決議年月日	平成15年 7月15日	平成16年 6月29日	平成17年 6月29日
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	—	—	—
付与	—	—	—
失効	—	—	—
権利確定	—	—	—
未確定残	—	—	—
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	7,905	405	3,050
権利確定	—	—	—
権利行使	—	—	—
失効	—	15	70
未行使残	7,905	390	2,980
決議年月日	平成18年 6月27日	平成19年 6月28日	平成20年 6月27日
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	—	—	2,680
付与	—	—	—
失効	—	—	—
権利確定	—	—	2,680
未確定残	—	—	—
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	1,220	1,620	10
権利確定	—	—	2,680
権利行使	1	80	—
失効	—	20	180
未行使残	1,219	1,520	2,510
決議年月日	平成21年6月26日	平成22年6月25日	
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	2,750	—	
付与	—	2,500	
失効	320	140	
権利確定	—	—	
未確定残	2,430	2,360	
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	—	—	
権利確定	—	—	
権利行使	—	—	
失効	—	—	
未行使残	—	—	

(注) 権利行使期間の前日を権利確定日とみなしております。

(連結子会社：イムナス・ファーマ株式会社)

決議年月日	平成16年8月31日	平成17年6月22日	平成18年6月23日
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	—	—	—
付与	—	—	—
失効	—	—	—
権利確定	—	—	—
未確定残	—	—	—
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	3,525	93	30
権利確定	—	—	—
権利行使	—	—	—
失効	—	—	—
未行使残	3,525	93	30
決議年月日	平成19年10月29日	平成20年6月30日	平成21年7月16日
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	—	680	523
付与	—	—	—
失効	—	—	—
権利確定	—	680	523
未確定残	—	—	—
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	3,000	600	—
権利確定	—	680	523
権利行使	—	—	—
失効	—	50	15
未行使残	3,000	1,230	508

②単価情報

(提出会社)

決議年月日	平成14年 5 月13日	平成14年 7 月24日	平成14年11月27日
権利行使価格 (円)	3,334	3,667	3,667
行使時平均株価 (円)	153,800	136,447	154,500
公正な評価単価 (付与日) (円)	—	—	—
決議年月日	平成15年 7 月15日	平成16年 6 月29日	平成17年 6 月29日
権利行使価格 (円)	100,000	585,614	① 250,530 ② 177,259
行使時平均株価 (円)	—	—	—
公正な評価単価 (付与日) (円)	—	—	—
決議年月日	平成18年 6 月27日	平成19年 6 月28日	平成20年 6 月27日
権利行使価格 (円)	70,492	① 64,511 ② 64,511 ③ 143,798 ④ 143,798	① 129,934 ② 169,000 ③ 169,000
行使時平均株価 (円)	119,400	133,400	—
公正な評価単価 (付与日) (円)	27,135	① 24,551 ② 24,551 ③ 74,204 ④ 74,204	① 57,740 ② 109,094 ③ 109,094
決議年月日	平成21年6月26日	平成22年6月25日	
権利行使価格 (円)	①176,900 ②176,900	①158,948 ②158,948	
行使時平均株価 (円)	—	—	
公正な評価単価 (付与日) (円)	①112,528 ②112,528	①90,289 ②90,289	

(連結子会社：イムナス・ファーマ株式会社)

決議年月日	平成16年 8 月31日	平成17年 6 月22日	平成18年 6 月23日
権利行使価格 (円)	① 50,000 ② 50,000 ③ 50,000 ④ 50,000 ⑤ 50,000	① 50,000 ② 50,000 ③ 50,000	285,000
行使時平均株価 (円)	—	—	—
公正な評価単価 (付与日) (円)	—	—	—
決議年月日	平成19年10月29日	平成20年 6 月30日	平成21年 7 月16日
権利行使価格 (円)	50,000	① 56,000 ② 56,000 ③ 56,000 ④ 56,000 ⑤ 56,000	① 56,000 ② 56,000 ③ 59,000 ④ 59,000
行使時平均株価 (円)	—	—	—
公正な評価単価 (付与日) (円)	—	—	—

4. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

(1) 提出会社

当連結会計年度において付与された平成22年Stock・オプションについての公正な評価単価に見積方法は以下のとおりであります。

①ブラック・ショールズ式

	平成23年6月13日付与
株価変動性（注）1	70.53%
予想残存期間（注）2	6年
予想配当（注）3	—
無リスク利率（注）4	0.535%

（注）1. 6年（平成17年6月から平成23年6月まで）の株価実績に基づき算定しております。

（注）2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積もりが困難なため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

（注）3. 平成23年3月期は配当の実績はありません。

（注）4. 予想残存期間に対応する期間に対応する国債の利回りであります。

(2) イムナス・ファーマ株式会社

該当事項はありません。

5. Stock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社及び連結子会社は「医薬品の研究及び開発」並びにこれらに関連する事業内容となっており、事業区分が単一セグメントのため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社及び連結子会社は「医薬品の研究及び開発」並びにこれらに関連する事業内容となっており、事業区分が単一セグメントのため、記載を省略しております。

(関連情報)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

外部顧客への売上高は、単一の製品・サービスによるものであるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が無いため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
塩野義製薬株式会社	2,769,689	医薬品の研究及び開発
大塚製薬株式会社	1,580,711	医薬品の研究及び開発

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

外部顧客への売上高は、単一の製品・サービスによるものであるため、記載を省略しておりません。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高が無いため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
塩野義製薬株式会社	3,826,335	医薬品の研究及び開発
大塚製薬株式会社	1,721,368	医薬品の研究及び開発

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

（1株当たり情報）

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	46,938円77銭	49,209円08銭
1株当たり当期純利益金額	2,746円84銭	3,476円64銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	2,399円47銭	3,097円69銭

(注) 算定上の基礎

1 1株当たり純資産額

項目	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	10,259,604	11,288,373
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	542,245	820,323
新株予約権	489,018	708,123
少数株主持分	53,226	112,200
普通株式に係る純資産額(千円)	9,717,358	10,468,049
1株当たり純資産額の算定に用いられた当期末の普通株式の数(株)	207,022	212,726

2 1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
連結損益計算書上の当期純利益(千円)	566,758	726,961
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	566,758	726,961
普通株式の期中平均株式数(株)	206,331	209,099
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に用いられた当期純利益調整額の内訳(千円)	—	—
当期純利益調整額(千円)	—	—
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に用いられた普通株式増加数の内訳(株)	29,993	25,580
新株予約権		
普通株式増加数(株)	29,993	25,580

項目	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
希薄化効果を有しないため、 潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額の算定に含まれ なかった潜在株式の概要	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成16年6月29日 (新株予約権405個)	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成16年6月29日 (新株予約権390個)
	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成17年6月29日 (新株予約権3,050個)	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成17年6月29日 (新株予約権2,980個)
	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成20年6月27日 (新株予約権2,680個)	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成19年6月28日 (新株予約権585個)
	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成21年6月26日 (新株予約権2,750個)	新株予約権 株主総会の特別決議日 平成20年6月27日 (新株予約権2,500個)
		新株予約権 株主総会の特別決議日 平成21年6月26日 (新株予約権2,430個)
		新株予約権 株主総会の特別決議日 平成22年6月25日 (新株予約権2,360個)

(会計方針の変更)

当連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益の金額は、2,398円23銭であります。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

5. 個別財務諸表
(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,477,424	8,706,208
売掛金	878,503	2,800,150
有価証券	1,500,000	—
原材料及び貯蔵品	25,168	23,530
前渡金	379,975	293,027
前払費用	23,747	34,134
未収入金	43,884	1,359
その他	3,220	41,979
流動資産合計	10,331,924	11,900,390
固定資産		
有形固定資産		
建物	359,717	360,515
減価償却累計額	△87,383	△117,168
建物及び構築物(純額)	272,334	243,347
機械及び装置	129,954	129,954
減価償却累計額	△114,874	△118,644
機械及び装置(純額)	15,079	11,309
工具、器具及び備品	493,981	511,147
減価償却累計額	△372,828	△429,837
工具、器具及び備品(純額)	121,153	81,310
有形固定資産合計	408,567	335,967
無形固定資産		
特許権	142,925	152,547
ソフトウェア	10,103	8,531
その他	72	72
無形固定資産合計	153,102	161,151
投資その他の資産		
関係会社株式	130,000	130,000
関係会社出資金	228,490	228,490
長期前払費用	4,023	1,446
差入保証金	65,101	64,885
投資その他の資産合計	427,614	424,822
固定資産合計	989,284	921,940
資産合計	11,321,208	12,822,331

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	300,256	335,950
未払費用	17,848	14,896
未払法人税等	76,854	485,318
未払事業所税	1,582	1,582
未払消費税等	35,770	62,330
前受金	353,541	301,528
預り金	8,964	11,828
流動負債合計	794,818	1,213,435
固定負債		
繰延税金負債	38,804	27,774
資産除去債務	77,642	79,982
その他	—	99,189
固定負債合計	116,447	206,946
負債合計	911,265	1,420,382
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,546,441	3,560,320
資本剰余金		
資本準備金	6,511,663	6,525,542
資本剰余金合計	6,511,663	6,525,542
利益剰余金		
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	26,085	18,772
繰越利益剰余金	△163,267	589,189
利益剰余金合計	△137,181	607,962
株主資本合計	9,920,923	10,693,826
新株予約権	489,018	708,123
純資産合計	10,409,942	11,401,949
負債純資産合計	11,321,208	12,822,331

(2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
事業収益	5,361,397	6,062,471
事業費用		
研究開発費	4,399,739	4,595,075
販売費及び一般管理費	370,311	318,181
事業費用合計	4,770,050	4,913,256
営業利益	591,346	1,149,214
営業外収益		
受取利息	9,866	5,286
有価証券利息	1,367	1,917
為替差益	—	212
助成金収入	328,717	57,346
業務受託料	4,295	582
雑収入	5,227	116
営業外収益合計	349,474	65,461
営業外費用		
為替差損	12,555	—
営業外費用合計	12,555	—
経常利益	928,265	1,214,675
特別利益		
新株予約権戻入益	1,556	21,121
特別利益合計	1,556	21,121
特別損失		
固定資産除却損	4,718	1,605
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	21,432	—
特別損失合計	26,150	1,605
税引前当期純利益	903,671	1,234,191
法人税、住民税及び事業税	62,111	500,077
法人税等調整額	37,399	△11,029
法人税等合計	99,510	489,047
当期純利益	804,160	745,143

(3) 株主資本等変動計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,505,953	3,546,441
当期変動額		
新株の発行（新株予約権の行使）	40,487	13,879
当期変動額合計	40,487	13,879
当期末残高	3,546,441	3,560,320
資本剰余金		
当期首残高	6,471,175	6,511,663
当期変動額		
新株の発行（新株予約権の行使）	40,487	13,879
当期変動額合計	40,487	13,879
当期末残高	6,511,663	6,525,542
利益剰余金		
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金		
当期首残高	2,730	26,085
当期変動額		
圧縮記帳積立金の取崩	△4,089	△8,386
圧縮記帳積立金の積立	27,444	1,073
当期変動額合計	23,354	△7,312
当期末残高	26,085	18,772
繰越利益剰余金		
当期首残高	△944,072	△163,267
当期変動額		
当期純利益	804,160	745,143
圧縮記帳積立金の取崩	4,089	8,386
圧縮記帳積立金の積立	△27,444	△1,073
当期変動額合計	780,805	752,456
当期末残高	△163,267	589,189
利益剰余金合計		
当期首残高	△941,342	△137,181
当期変動額		
当期純利益	804,160	745,143
当期変動額合計	804,160	745,143
当期末残高	△137,181	607,962
株主資本合計		
当期首残高	9,035,787	9,920,923
当期変動額		
新株の発行（新株予約権の行使）	80,975	27,758

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
当期純利益	804,160	745,143
当期変動額合計	885,136	772,902
当期末残高	9,920,923	10,693,826
新株予約権		
当期首残高	229,983	489,018
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	259,035	219,104
当期変動額合計	259,035	219,104
当期末残高	489,018	708,123
純資産合計		
当期首残高	9,265,771	10,409,942
当期変動額		
新株の発行 (新株予約権の行使)	80,975	27,758
当期純利益	804,160	745,143
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	259,035	219,104
当期変動額合計	1,144,171	992,007
当期末残高	10,409,942	11,401,949

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

6. その他

該当事項はありません。